

成田 連治（なりた・れんじ）

1、プロフィール

昭和 26 年、五所川原短歌会を結成、のちに会長。32 年、歩道短歌会入会。佐藤佐太郎氏に師事。日本歌人クラブ会員。県歌人懇話会幹事。県下短歌大会の選者を歴任した。

<生没>

1910(明治 43)年 12 月 7 日～1983(昭和 58)年 2 月 10 日

<代表作>

歌集『岩木川』

<青森との関わり>

成田連治(本名・治逸)は五所川原市田町に生まれ、同市旭町に写真館を開業。終生、短歌を愛した。

2、作家解説

昭和6年に東京下落合、オリエンタル写真学校卒業、同7年に五所川原市旭町に写真館を開業した。

作歌を始めたのは 13 年頃から、白戸露花、林柁次氏らの作家活動に心惹かれて習作し、歌作を奨められ添削もうけた。

26 年には五所川原短歌会を結成して事務局長となり、のちに会長を務めた。30 年に同短歌会の機関誌「梵珠」を発刊、編集を担当する。

32 年、歩道短歌会に入会。37 年同人となる。

33 年、歩道五所川原支部結成、発起人となる。

36 年、陸奥新報社主催、文芸コンクール 20 首詠に特選となる。

39 年、東奥日報社紙上に「冬の十三湾」10 首掲載される。

45 年、日本歌人クラブ会員となる。

46 年、青森県歌人懇話会幹事。

47年から青森県歌集に毎年投稿する。

49年10月6日、蘭菊会発祥の地記念碑建立除幕式挙行。

50年、青森県文化振興会議評議員。五所川原市文化振興会議監事に就任。

54年4月20日、第1歌集『岩木川』発刊。

35年頃より、県下各地短歌大会第1位受賞4回。明治神宮記念歌会、靖国神社記念歌会、短歌研究大会に投稿して入選。35年より53年までに次の地区県下短歌大会の選者を毎年務めた(黒石市、観楓県下短歌大会・陸奥新報社主催県下短歌大会・金木町、観桜県下短歌大会・木造町、西の高野山県下短歌大会・中里町、北湖県下短歌大会・鱒ヶ沢町、県下短歌大会)。それらの功績により、51年に五所川原市文化奨励賞。

52年に第2回青森県歌人功労賞、五所川原市文化褒賞を受賞した。

3、資料紹介

○歌集『岩木川』

図書

1979(昭和54)年4月20日

209mm×146mm

佐藤佐太郎に師事した著者の第1歌集。「年老ゆると共に郷土に対する愛着心が強まり、その特殊性を具体的に描写することに喜びを感じるようになった。歓びの日は岸打つ波音に胸はずみ、悲しみの日はとよむ流れに心改め年を経た」と言う著者21年の足跡が詠われている。